

動物に関するもの

犬石・石仏供養塔

《勢至堂》

永正年間、勢至堂には村はなかつた。

犬をつれた狩人が、山から山へ狩をしてこの地にたどり着いた。一休みしたら、朝からの疲れがどつと出てついうどうとした。非常に犬が泣きさわぐので、起きて呼べば尾を振つて喜ぶ。うとうととするとまた犬が泣きさわぐので眠ることはできなかつた。

しかし、眠けはつのるばかりで、夢うつつで鉄砲の台尻で犬をはたいてしまつた。犬は悲しい声を上げて死んだ。ふと我にかえつてみれば、大蛇が今にも狩人を呑まんとしているではないか。狩人は鉄砲を取つて大蛇と戦つて遂に打ち殺した。

狩人は後悔した。飼犬は自分を大蛇から守るために吠え続けたのだと思うととてもふびんで、自分の浅はかさを後悔して犬の供養に石碑を建てた。



犬石(石仏供養塔)